

令和丙午、新年明けましておめでとうございます。

ご家族皆さまでお健やかに新しい年をお迎えになられたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年も各地で、大規模地震・山林火災や都市火災・記録的猛暑、豪雨・台風・土砂災害等に見舞われ、甚大な被害が発生しました。

み春野自治会では設立以来、安全で安心、快適な居住環境の維持向上、かつ

災害にも強いまちづくりを基本として、従来から「自助」「共助」を根幹に据えた地域対応力の強化を主体とした防災関連事業に注力してきています。

また快適な居住環境の維持・向上という点では、お互いが毎日を気持ちよく生活できるように周辺環境の整備、特に植栽等の適切な維持管理・犬のフン始末といった当たり前のことと/orをよりお願いしています。

隣近所との「顔の見える関係づくり」「つながりのある地域づくり」をベースに、従来からの各種イベントに加え新たな会員交流促進の場つくりや、近隣自治会との連携体制維持や地域運営委員会による地域課題への対応、自治体や所轄署等関係機関との連携強化や迅速な情報共有等を進めていきたいと考えています。

明るく勢いのある新しい年にしたいと思います。自治会活動へのご理解・ご協力を引き続きよろしくお願ひいたします。

正月からの厳しい寒さが続いており一日の寒暖差も大きく空気も乾燥しています。体調管理には十分留意してお過ごしください。



【各部からのお知らせ】

1. 広報 DX 部より

《「いちのいち」利用を今年度で終了する件》

現在利用している「いちのいち(地域交流アプリ)」は、一昨年度(R5)に総務省の「自治会等における地域活動のデジタル化実証事業(単年度)」に千葉市が参加したことに伴い、当自治会も協力することで始めています。もっとも千葉市では単年度の総務省実証事業では十分取り組めなかったとして、翌年度(R6)は市の事業として検証継続することになりましたので、当自治会としても引き続き協力利用しましたが、千葉市の事業としては単年度(R6)で終了しました。

もっともアプリ開発業者が当自治会に対しては2年間の利用実績を踏まえて、今年度(R7)に限り無償利用提供をしてくれていますが、昨年6月のアプリ更改で利用者登録データの引き継ぎが出来ず足許では登録数がピーク時の3割ほどに低下しています。

一方で、①来年度からアプリ利用が有料化すること、②千葉市での導入なく地域一体でのDX化に至らず双方での情報共有に結びつかないこと、③アプリ機能が十分でなく当方申し出の改善や増強も進捗ないこと、④当自治会では既にHPや一斉メール(blastmail)での情報共有を行っていること、等勘案、次年度(R8)から「いちのいち」の継続利用は取り止めますので、ご理解をお願いします。

2. 防災部より

《「首都直下地震に備える！今こそ“自分ごと”としての防災を》

令和7年12月19日、中央防災会議 防災対策実行会議の首都直下地震対策検討ワーキンググループは、「首都直下地震の被害想定と対策について(報告書)」を公表しました。報告書では、首都中枢機能を維持し、膨大な人的・物的被害を減らすために、私たち一人ひとりが災害を“自分ごと”として捉え、共に立ち向かうとの重要性が強調されています。

首都直下地震が発生した場合、行政機能の麻痺や外部支援の遅れにより、行政だけでは十分な対応が困難になると想定されています。そのため、「行政が守る」という受け身の姿勢から、「社会全体で災害に立ち向かう」という能動的な意識への転換が求められています。個人・家庭・地域・企業・行政がそれぞれの役割を果たし、連携して総合的な防災力を高めることが重要です。

特に東京圏のような都市部では、被災時の生活を具体的に想定し、平時からの備えが不可欠です。建物の耐震化や家具の固定、感震ブレーカーの設置といった自助の強化に加え、大規模火災時の適切な避難行動、交通渋滞を避けるための車両利用や一斉帰宅の自粛、安否確認手段の事前共有などが求められます。また、停電や通信障害に備えた情報収集手段の確保、デマ拡散を防ぐためのデジタルリテラシーの向上、現金の備えも大切です。避難所の混雑を避けるためには、至急の支援を必要としない場合は在宅避難を基本とし、水や食料の備蓄(最低3日分、推奨1週間分)やローリングストックの実践が推奨されます。

一方で、都市部では隣人との関係が希薄化しており、1973年には「助け合える関係」が「挨拶程度の関係」を上回っていたのに対し、2018年にはその割合が逆転しています。特に若年層や都市部の高齢者に孤立傾向が見られ、災害時の「共助」が機能しにくい状況にあります。その結果、行政や支援者が個別対応を迫られ、災害対応ニーズが増大することが懸念されます。

しかしながら、近年ではNPOや企業、SNSなどを通じた新たな地域活動やつながりも広がっており、従来の地縁型組織に加え新しいコミュニティの形成が進んでいます。こうした動きは、災害時の共助を再構築する可能性を秘めており、社会の変化に即した柔軟なつながりづくりが今後ますます重要になります。

防災は「自分ごと」としての意識と行動が出発点です。一人ひとりの備えと、地域でのつながりの再構築が、災害に強い社会を築く鍵となります。

3. 防犯交通部より

《街路灯・防犯街灯の点灯状況にご注意ください》

み春野住宅地内には、道路沿いに設置された「街路灯」と、住宅地周辺の電柱等に設置された「防犯街灯」があります。これらの灯りは、地域の交通安全や防犯に欠かせない設備です。特に夕暮れ時や夜間の安全確保に重要な役割を果たしています。点灯していない、あるいは点滅している灯りを見つけた際は、早めの連絡(以下参照)をお願いします。

【街路灯】花見川・稻毛土木事務所(043-257-8843) → 街路灯付近に記載の「アルファベット」で始まる番号をお伝えください。

【防犯街灯】花見川区地域づくり支援課(043-275-6224) → 防犯街灯付近に記載の「花」で始まる番号をお伝えください。

✓ 連絡は「MyCityReport」でも可能です。スマホにダウンロードのうえ、ご利用下さい。

「千葉市マイシティレポート」で検索頂くか以下の URL をご参照下さい。

<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/shichokoshitsu/kohokocho/chibarepo.html>

また、「一戸一灯」のご協力もお願いします。

夜間に各家庭の門灯や玄関灯を点灯し街全体を明るく照らすことで、侵入盗やひったくり等の犯罪抑止に有効とされています。夜間(1日10時間)LEDの門灯を点灯した場合の年間電気代は、約1,100円程度です。
(ご家庭の従来電灯契約の内容によって若干変わります)
地域の安心・安全な暮らしのため、皆さまのご協力をお願いいたします。

4. 親睦部より

《令和8年新春マラソン・ウォーキング大会が開催されました》

年明け間もない1月4日、こてはし台公園において恒例の「新春マラソン・ウォーキング大会」が開催されました。今年の大会から「こてはし台地区スポーツ振興会」の共催、「こてはし台中学校区地域運営委員会」の協賛による開催となり、参加自治会も拡大しました。当日は新年の日差しのなか、ウォーキング(4km)、マラソン(2km、4.2km)のそれぞれの種目にみ春野からもたくさんの方が参加し、思い思いのペースで運動を楽しんでいました。

11日には賀詞交歓会が開催され、多くの皆さんに参加いただきました。

今年は地域運営委員会が主催・共催してのイベントも増えてきますので、ぜひご参加ください。

新春マラソン・ウォーキング大会、各種目・部門の参加者と主な結果は以下のとおりです。

種目・部門	参加者数（前年）	み春野参加者の成績
マラソン合計	118 (108)	
幼児	6 (5)	—
高齢者	6 (6)	1位・2位
小学低女子	6 (4)	—
小学高女子	6 (6)	2位
小学低男子	17 (11)	—
小学高男子	30 (28)	—
中高男子	6 (20)	1位・4位
一般女子	17 (10)	2位
一般男子	24 (18)	2位
ウォーキング	66 (63)	—
総合計	184 (171)	



5. 総務部より

《集会所利用実績(10月～12月)》

団体名利用回数

シニア 15 社協 3

レガート 5 自治会など 12

太鼓 15 ガーデニング 1

なでしこ 1

期間中の総利用回数は52回でした。これからもお気軽にご利用ください。